



# 犠牲繰り返さぬ報道を

## 災害とメディア研究会発足

宮城

いのちと  
地域を  
守る

産学官民と報道機関の連

携組織「みやぎ防災・減災  
円卓会議」の派生組織とし  
て、宮城県内の一線記者や  
若手研究者、行政担当者ら  
が参加する「みやぎ『災害

震災の津波被災地を訪れ、慰霊  
碑の前で犠牲者を悼む研究会メ  
ンバー23日、東松島市の復興  
祈念公園

とメディア」研究会」が23  
日発足し、災害時の情報発

信や平時の防災啓発の在り  
方について情報共有と意見  
交換を始めた。

在仙の新聞社や放送局の  
記者・デスク45人、東北大  
や宮城教育大などの若手研  
究者12人、仙台管区気象台、  
東北地方整備局の担当者6  
人の計63人が登録した。年  
4回程度の例会を開き、災  
害犠牲や混乱を繰り返さな  
い報道の在り方について議

論を重ねる。

宮城県南三陸町の研修施  
設「いりやど」で開いた設  
立総会で、円卓会議世話人  
の今村文彦東北大災害科学

国際研究所長は「災害発生  
時に議論してもかみ合わな  
い。通常時の学びを通じて  
非常時に迅速、適切に対応  
したい」とあいさつ。同世  
話人で研究会幹事役の武田  
真一河北新報社防災・教育  
室長が経過説明し「災害犠  
牲を無くし、被害と混乱を

最小限に抑えるための連携  
を強めたい」と述べた。

23日は総会に合わせて被  
災地を視察。JR仙石線旧  
野蒜駅を改修した東松島市  
の震災復興伝承館や石巻市  
の震災伝承施設「南浜つな  
ぐ館」を約40人が訪れ、被  
災した遺族らの語りに耳を  
傾けた。24日は災害報道の  
課題などについて意見交換  
し、南三陸町の水産加工会  
社や石巻市大川小の被災校  
舎などを視察する。

円卓会議は2015年4  
月設立の連携組織。被災地  
自治体も含めて89団体17  
6人が登録し、月1回の例  
会で震災伝承や防災啓発の  
在り方を議論している。